

# PALTEK

(証券コード:7587)

## 2018年12月期 第1四半期 決算説明資料

2018.5.8 (火)

© 2018 PALTEK Corporation. All rights reserved.



### 本資料取り扱い上の注意点

本資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、現時点における情報に基づき判断したもので、当社グループは、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める所存であります。

なお、本資料においては、将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において判断したものであります。

また、実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。

- ① 国内エレクトロニクス業界の急激な景気変動や需要動向の変化
- ② 仕入先の代理店政策の見直しや再編等により取引関係の継続が困難となった場合
- ③ 不測の事態による当社グループの情報資産が流出した場合
- ④ 為替相場の急激な変動
- ⑤ 新規仕入先商品の立ち上がりの遅れが生じた場合
- ⑥ 顧客の日本国内での製品開発案件が更に海外へシフトし、当社グループの販売活動が及ばない地域へ移管された場合

- ① 2018年12月期 第1四半期  
業績結果
- ② 2018年12月期 業績予想
- ③ 今後に向けた取り組み

1

**2018年12月期 第1四半期  
業績結果**

## 2017年までの事業セグメント



## 2018年以降の事業セグメント



※スマートエネルギー事業は、ソリューション事業に入ります

(百万円)	2017年第1四半期		2018年第1四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
売上高	7,734	100.0%	8,741	100.0%	1,007	13.0%
売上総利益	1,150	14.9%	978	11.2%	△171	△14.9%
販管費	790	10.2%	769	8.8%	△20	△2.6%
営業利益	360	4.7%	209	2.4%	△151	△41.9%
経常利益	439	5.7%	134	1.5%	△304	△69.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	297	3.8%	79	0.9%	△218	△73.3%
1株当たり当期純利益	27.16円	-	7.24円	-	△19.92円	△73.3%

### 主な増減要因

- 売上高の増加は、半導体事業の増加による
- 売上総利益の減少は、前期では仕入値引ドル建債権の評価額が増加したが、当期ではドル円相場が円高に進行し同評価額が減少したこと、FPGAビジネスで主要大手顧客(一部)の利益率が低下したことによる
- 経常利益の減少は、営業利益の減少のほか為替差損および支払手数料の発生による

(百万円)	2017年第1四半期		2018年第1四半期		増減	
	金額	比率	金額	比率	増減額	増減率
半 導 体	7,212	93.2%	8,208	93.9%	996	13.8%
デザイン サービス	468	6.1%	475	5.4%	7	1.5%
ソリュー ション	53	0.7%	57	0.7%	3	6.9%
売上高合計	7,734	100.0%	8,741	100.0%	1,007	13.0%

### 主な増減 要因

- 半導体事業は、医療機器および放送機器向けのFPGA、携帯情報端末向けのメモリ製品などが増加
- デザインサービス事業は、医療機器向けが増加
- ソリューション事業は、乳幼児呼吸見守りシステムが増加

## ■ 売上総利益率の減少は、以下の2つが要因

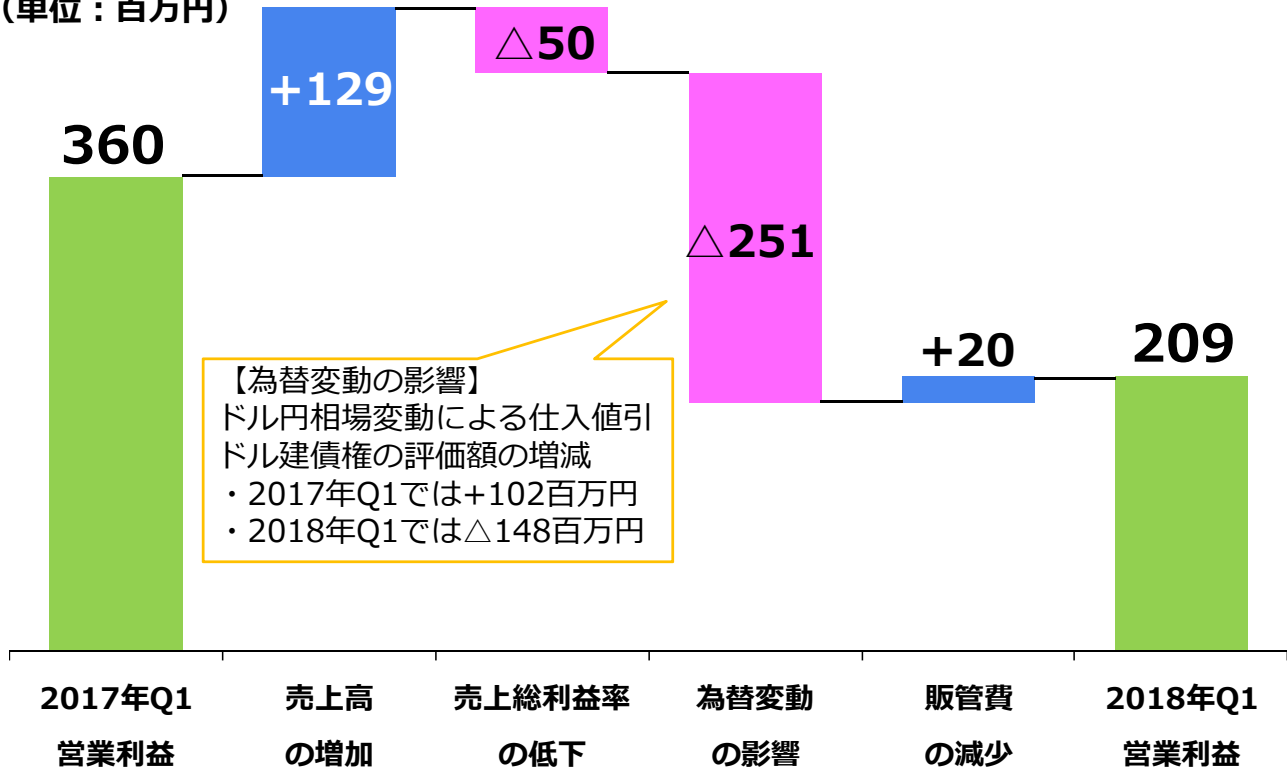
- ドル円相場により変動する仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の増減等により売上総利益が、  
2017年第1四半期では+102百万円（+ 1.3%分）  
2018年第1四半期では△148百万円（△1.7%分）の影響があった

(百万円)	2017年第1四半期		2018年第1四半期	
	金額	対売上比率	金額	対売上比率
売 上 総 利 益	1,150	14.9%	978	11.2%
(うち為替の影響額)	+102	+1.3%	△148	△1.7%
売 上 総 利 益 (為替の影響を排除)	1,048	13.6%	1,127	12.9%

- 半導体事業において、FPGAビジネスで主要大手顧客(一部)の利益率が低下、売上総利益率が低い民生機器向けの案件の売上高が増加したため

## 営業利益の増減分析

(単位：百万円)



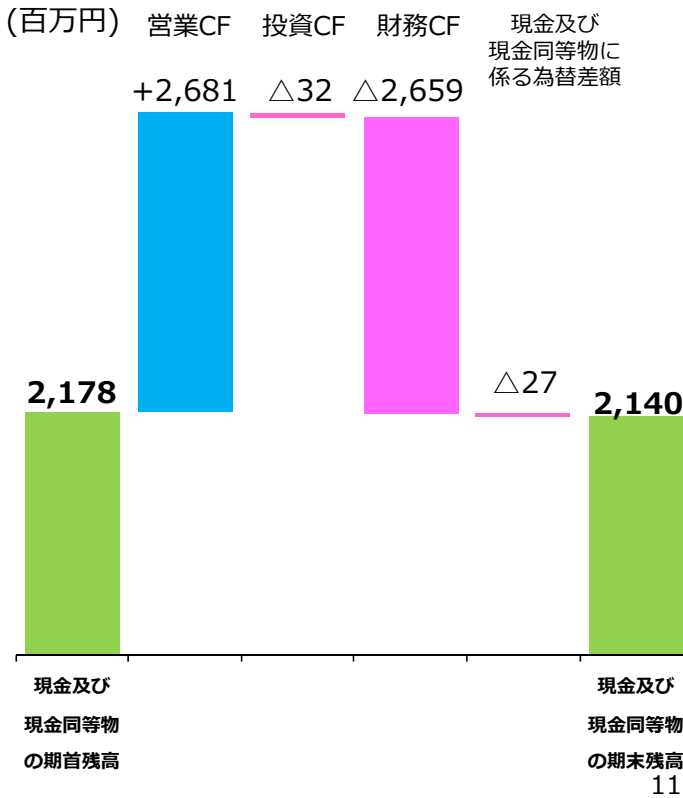
## 連結貸借対照表の状況

		(百万円)	2017.12	2018.03	増減額	主な増減理由
資産内訳	現金及び預金		2,178	2,140	△37	
	売上債権		7,087	7,291	203	
	商品		3,559	3,219	△339	
	その他流動資産		3,904	1,209	△2,694	未収入金が大幅に減少
	固定資産		450	467	16	
資産合計			17,180	14,327	△2,852	
負債純資産内訳	仕入債務		1,387	1,475	87	
	短期借入金		5,030	2,510	△2,520	借入金返済を実施
	その他流動負債		999	649	△350	
	固定負債		261	261	0	
	純資産		9,501	9,431	△69	
負債・純資産合計			17,180	14,327	△2,852	



# 連結キャッシュ・フローの状況

## 2018年第1四半期のキャッシュフローの動き



(百万円)	2017年第1四半期	2018年第1四半期
現金及び現金同等物の期首残高	2,698	2,178
営業CF	△1,245	2,681
投資CF	△12	△32
財務CF	306	△2,659
現金及び現金同等物の期末残高	1,854	2,140

## 2018年第1四半期キャッシュフローの動き

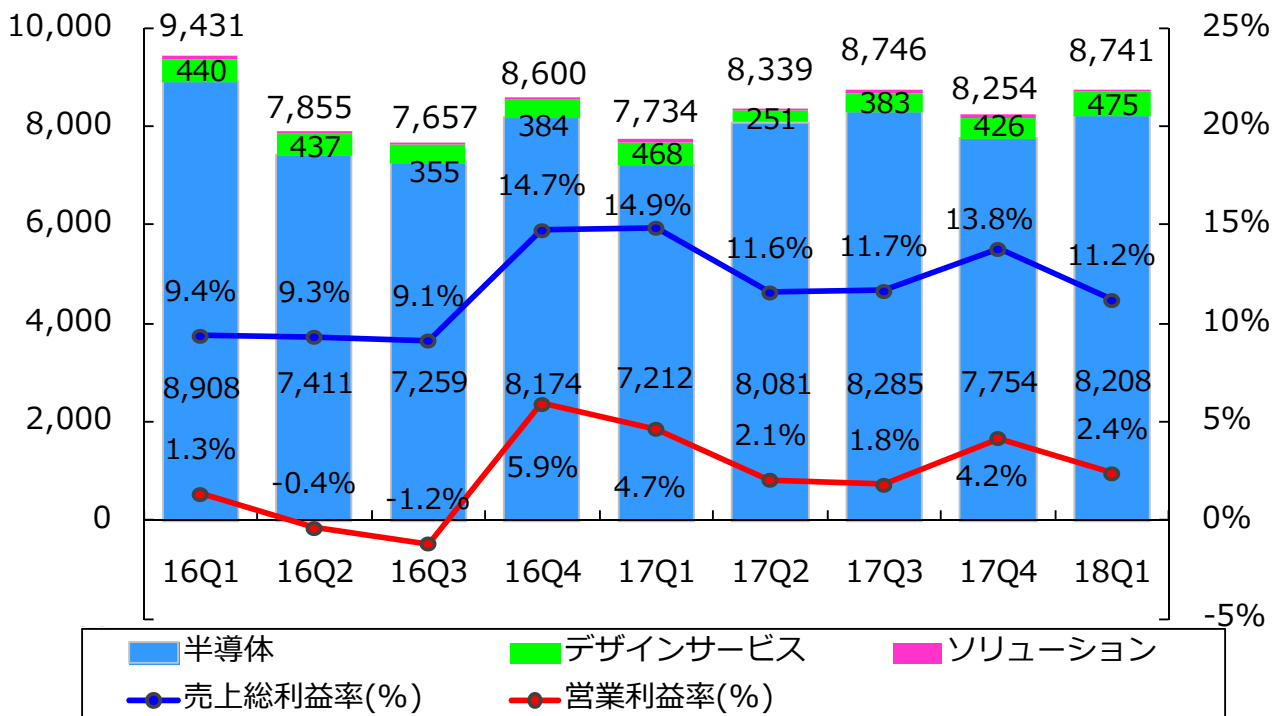
- 【営業CF】 税金等調整前当期純利益の計上し、未収入金の減少等により収入
- 【投資CF】 投資有価証券を取得したこと等により支出
- 【財務CF】 配当金支払いを実施したこと、借入れの返済等により支出

© 2018 PALTEK Corporation. All rights reserved.

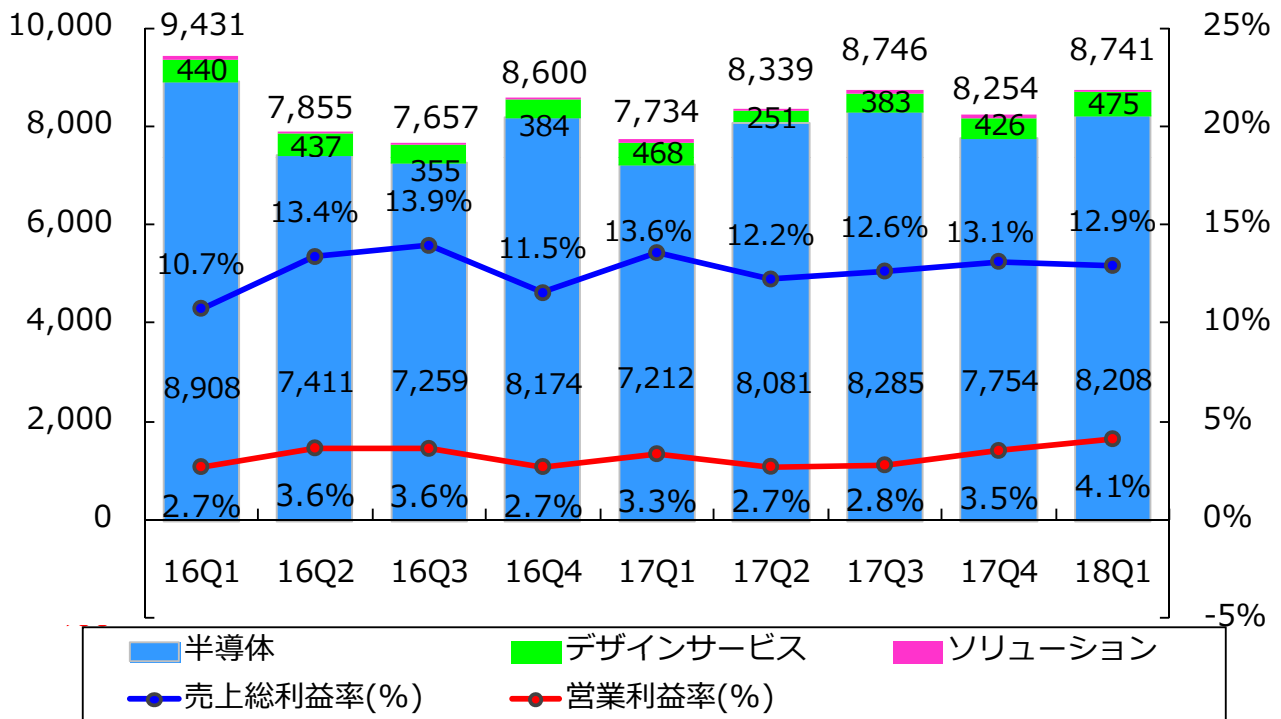


# 連結業績の四半期推移

(百万円)



(百万円)

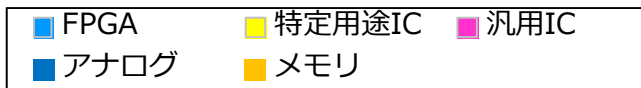
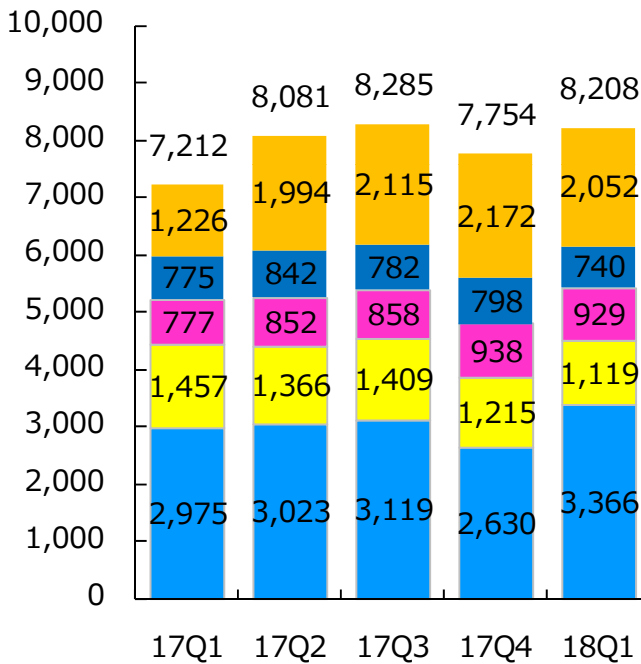


## 事業別の実績



## 半導体事業の状況（製品別）

(百万円)



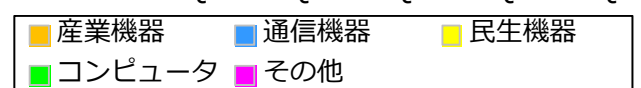
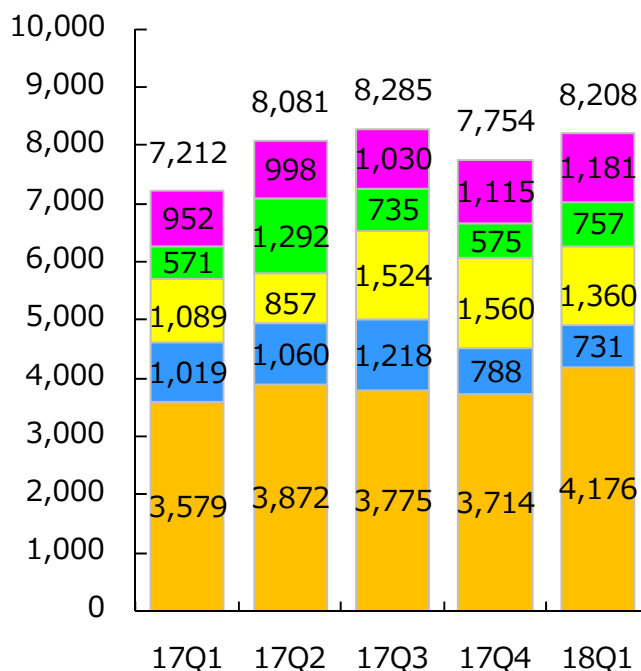
### 業績の推移

- FPGA**  
医療機器向けが増加
- 特定用途IC**  
放送機器向けは堅調に推移するも、通信インフラ向けが減少
- 汎用IC**  
オフィス機器向け等が減少
- アナログ**  
スーパーコンピュータ向けが減少
- メモリ**  
海外メーカー向けが減少



## 半導体事業の状況（用途別）

(百万円)

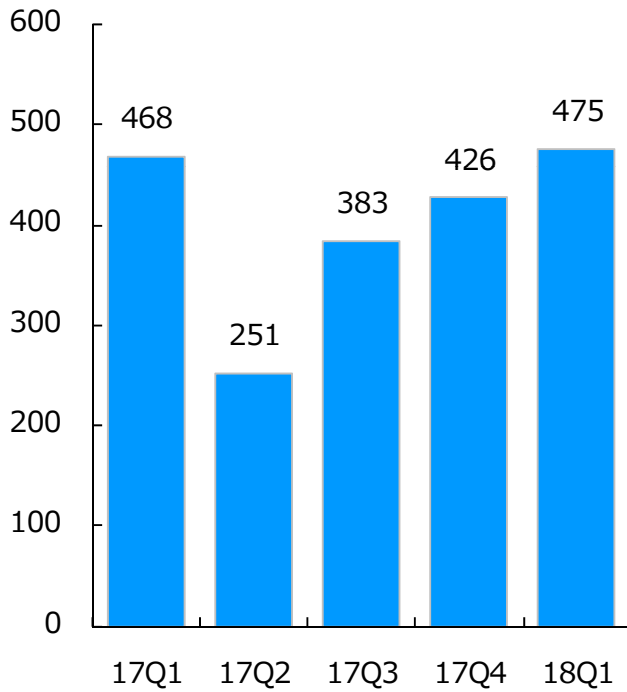


### 業績の推移

- 産業機器**  
医療機器向けなどが増加
- 通信機器**  
通信インフラ向けが減少
- 民生機器**  
携帯情報端末向けが減少
- コンピュータ**  
データセンター、パソコン向けが増加



(百万円)



## 業績の推移

- 航空/宇宙向けが減少するも、医療機器向けが増加

2

## 2018年12月期 業績予想

第1四半期の営業利益が増加し、予想を上回って推移すると見込まれるため、第2四半期の業績予想を修正

## ■ 第2四半期（累計）の見通し

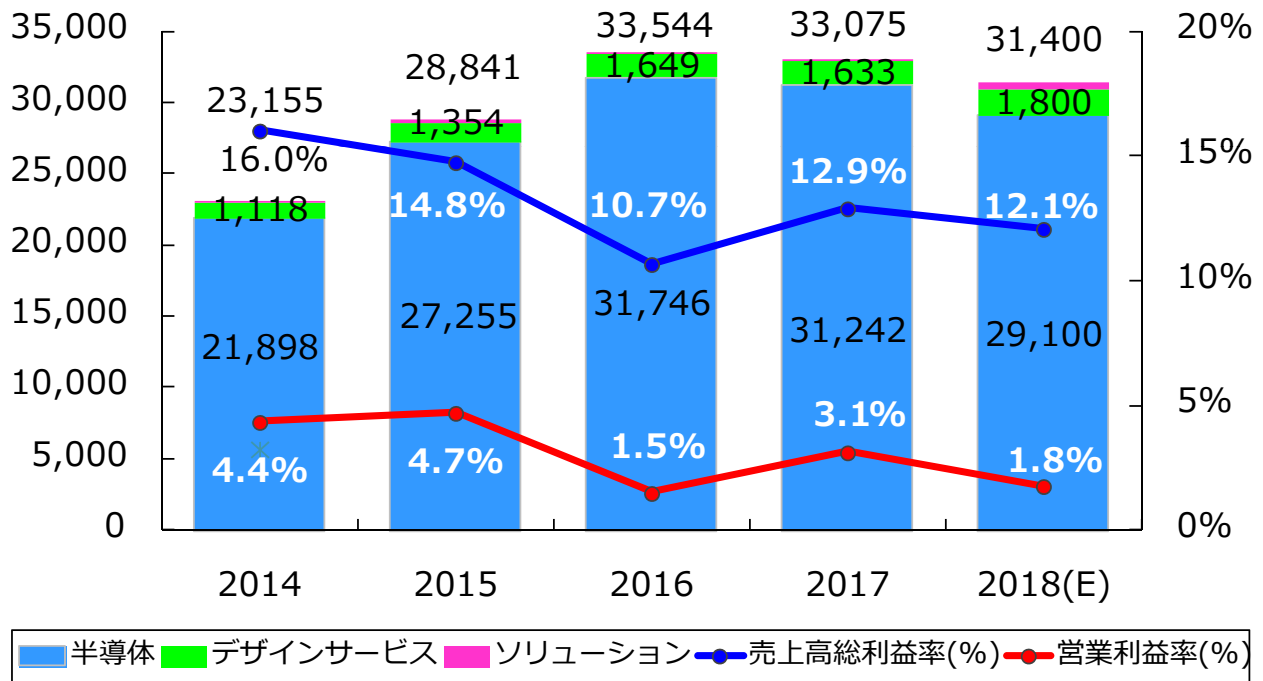
- 売上高 : 第1四半期の売上増加分を加味し、業績予想を修正
- 営業利益 : 以下の理由により増加
  - 仕入先に対して保有する仕入値引ドル建債権の評価額の減少を含む為替変動の影響が第1四半期で△148百万円発生したが、売上高の増加により、売上総利益は見通しどおり推移と見込む
  - 販売費及び一般管理費が想定よりも減少すると見込む
- 経常利益 : 第1四半期で営業外損益が△74百万円発生したことにより業績予想から変更なし
- FPGAビジネスにおいて、主要大手顧客との取引形態変更による利益率低下は、第1四半期では一部顧客のみでの低下であったが、第2四半期から対象主要大手顧客のすべてで利益率が低下することとなる

## ■ 通期の見通し

- 第2四半期（累計）における業績変動を加味し、業績予想を修正
- 下期（第3四半期、第4四半期）の数字は変更なし

(百万円)	2018年12月期 当初予想			2018年12月期 修正予想			通期修正増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
売上高	14,000	16,000	30,000	15,400	16,000	31,400	1,400	4.7%
売上総利益	1,830	1,970	3,800	1,830	1,970	3,800	-	-
売上総利益率	13.1%	12.3%	12.7%	11.6%	12.3%	11.9%	-	-
販管費	1,630	1,670	3,300	1,570	1,670	3,240	△60	△1.8%
営業利益	200	300	500	260	300	560	60	12.0%
営業利益率	1.4%	1.9%	1.7%	1.6%	1.9%	1.8%	-	-
経常利益	150	250	400	150	250	400	-	-
当期純利益	100	170	270	100	170	270	-	-

(百万円)



## 3

## 今後に向けた取り組み

## 【事業環境】

### ● 車載分野、IoTが成長市場へ

- 自動運転、電気自動車(EV)が更に発展
- さまざまなモノがインターネット接続に接続され、IoT関連の半導体市場が成長

### ● AI、ビッグデータの活用により半導体市場が拡大

- 携帯端末やデータセンター向けが成長
- 携帯端末で動画配信等が進む中でメモリ搭載容量も増加し、メモリ等の市場が成長



## 取り組み

- IoT,データセンター等の成長分野に提案力を強化 (Xilinx, Micron, NXP, Microchip)
- 特徴ある有望製品を扱うメーカーの開拓 (日本、欧米、アジア)

## ■ データセンター/AI分野へのソリューション提案力の強化

=データセンター開発キット=



## ■ マルチ提案（複合商材）の強化

- XILINX(FPGA) + Micron(メモリ),MPS(電源)

=複合商材=



## ■ FPGA成長市場での新製品提案/新規案件獲得の強化

= FPGA成長市場へ注力分野 =

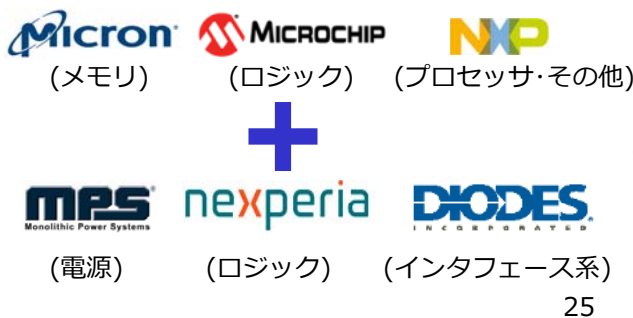


ネットワーク データセンタークラウド 車載 (ADAS) 産業機器 医療機器 エネルギー

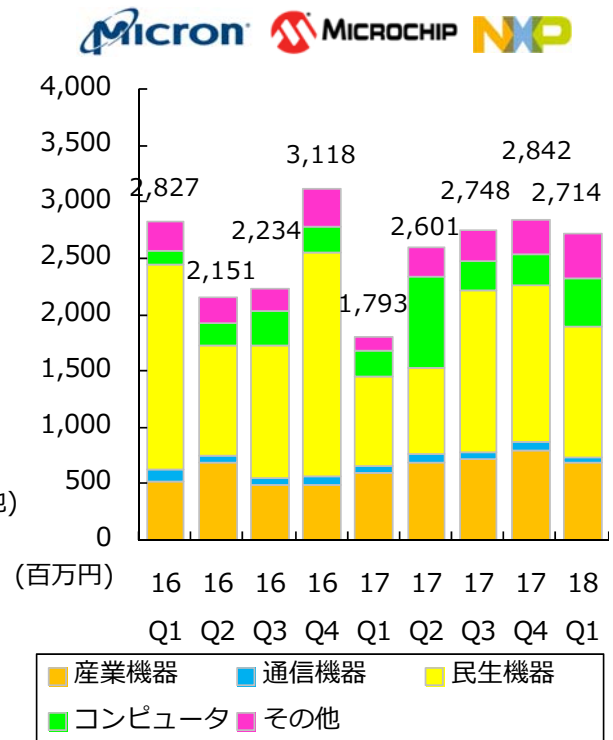
## ■ 成長マーケットへ注力

- データセンター
- 産業機器
- IoT関連機器
- 車載機器
- 通信機器
- 医療機器

## ■ 複数商材の提案力の強化



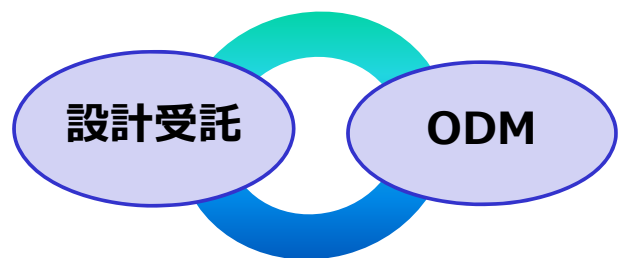
### 主要3製品の売上推移



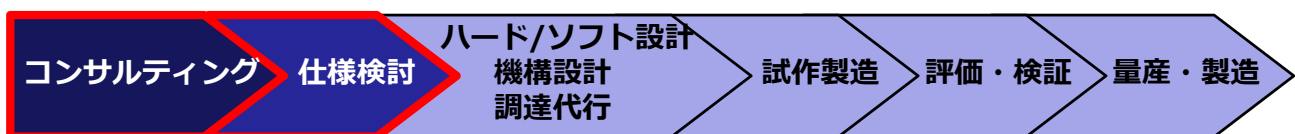
## ■ 製品実現に向けた提案から設計・試作・評価・量産までを設計・製造受託

## ■ 事業構成

- 設計受託
- ODM
- 開発サポート製品販売



## 提供するサービス



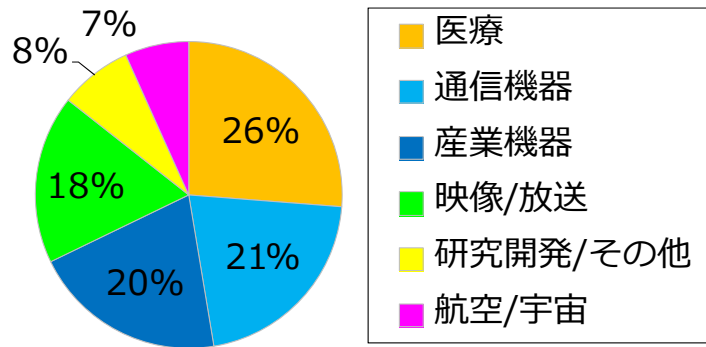
**強み**

※ ODM (Original Design Manufacturing) : 発注元企業のブランドで販売される製品を設計するだけでなく製造も行うこと

## ■ 医療機器、通信機器、映像/放送分野での設計受託・ODMが堅調

- 医療
  - 診断装置
- 通信機器
  - 無線通信インフラ
  - 5G関連
- 産業機器
  - 半導体製造装置
  - 監視カメラ装置
- 放送機器
  - 4K/8K関連機器

用途別売上構成（2018年Q1）



## ■ 株式会社ウィビコムをグループ化

- 株式取得の目的 : 無線通信に関する技術を活用した受託開発ビジネスやODMビジネスの拡大、IoTビジネス推進力の強化
- 株式取得金額 : 14百万円

### 【株式会社ウィビコムについて】

所在地 : 新潟県新潟市  
 設立年月日 : 2001年4月23日  
 事業内容 : ①無線に特化した組込み用途アナログ・デジタル基板の開発・量産  
 ②ワイヤレスモジュールの開発及び供給 など  
 従業員数 : 5名  
 資本金 : 4,395万円  
 コア技術 : ①無線通信システム開発技術、②高周波アナログ回路設計技術、③デジタル通信論理回路設計



# PALTEKグループの強み



半導体をベースにした営業力・提案力・開発力



無線通信技術

画像処理技術

制御技術

センサ技術

Explorer

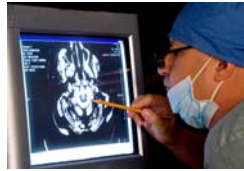
Explorer



ソフトウェア設計(アプリケーション、組み込みファームウェアなど)  
ハードウェア設計(基板設計、FPGA設計など)、筐体設計



産業機器



医療



放送・映像



セキュリティ



交通インフラ



## 4K・8K機材展に出展

- 「放送」から「産業分野」まで4K・8Kに関する撮影・編集・表示機材が一堂に会した展示会
  - ・ 開催日時 : 2018年4月4日(水)～6日(金)
  - ・ 会場 : 東京ビッグサイト
- 自社製品の映像伝送装置や8K映像合成装置などを紹介
  - ・ 4K H.265/HEVC IP伝送ソリューション
  - ・ 4K・8Kテスト信号出力(小型マルチチャンネルテスト信号発生器)
  - ・ 8K映像合成(4K・8KビデオプロセッシングボードImage CUBE2)
  - ・ 4K 360°VRカメラ映像のYouTubeアップロードソリューション



## ■ 世界最大の放送機器展覧会「NAB SHOW」に出展

- 開催日時 : 2018年4月9日(月)～12日(木)
- 会場 : 米国ラスベガス
- エクスプローラ製 4K H.264/HEVC コーデックシステムを展示
- 海外販売パートナーの開拓、連携強化
  - 海外販売パートナーにて5月よりコーデックシステムの評価開始



4K H.265/HEVCコーデック装置  
製品名: EHU-2400E/EHU-3400D



## ■ PALTEKの展開するソリューション事業

- 半導体事業、デザインサービス事業で培ったシステム提案力、技術サポート力をベースに展開
- 最終製品レベルでのソリューション提案を実施
- 自社製品（ハードウェア、ソフトウェア、システム）の開発・販売

## ■ ソリューション事例

ビデオソリューション	映像配信システム(4K_H.265/HEVC)
IoTソリューション	車載関連(TPMS)、呼吸見守りシステム
物流ソリューション	紙梱包資材システム
エネルギーソリューション	停電対策システム



- 非接触バイタルセンサーを活用した乳幼児呼吸見守りシステム「IBUKI」を提供

LIQUID



## 【実績】

- 東京都などの一部の地方公共団体で補助金が支給開始。売上高増加に寄与

## 【今後】

- 地方公共団体での補助金制度を活用したプロモーション加速

## ■ 新規市場の創造

- タイヤメーカー、トラックディーラー、大手運送会社、バス会社へタイヤ空気圧監視システムを提案継続

## ■ ジャパントラックショー2018に出展

- 開催日時 : 2018年5月10日～12日
- 会場 : パシフィコ横浜
- 日本最大のトラック関連総合展示会
- 物流事業者に対してタイヤ空気圧監視システムを紹介

JAPAN  
TRUCK SHOW  
ジャパントラックショー 2018



- 既存の梱包資材から、紙梱包資材への変更提案
  - 大手サードパーティロジスティクスを中心に提案中
- 通販ソリューション展に出展
  - 開催日時 : 2018年5月9日(水)～11日(金)
  - 会場 : 東京ビッグサイト
  - 主な出展内容 : 1. 自動紙緩衝材梱包システム  
2. コールドチェーン向け紙梱包資材



## 為替変動に関する影響

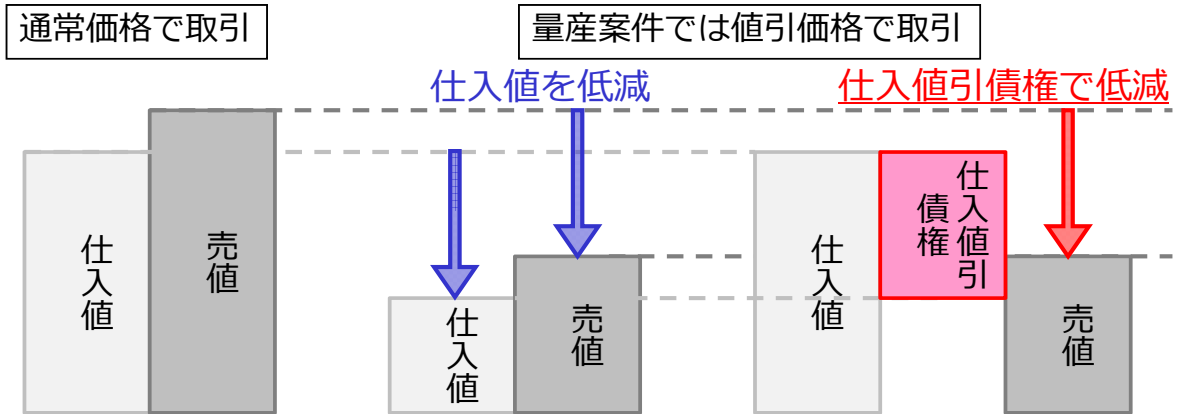
## 為替変動による影響について

- 為替変動により当社グループの利益は以下の4点で影響を受けます
  - ① 仕入値引ドル建債権の為替変動による影響
  - ② 調達在庫の為替変動による影響
  - ③ 決済時のドル調達レート変動による影響
  - ④ ドル建売掛金入金時のレート変動による影響

## 為替変動による影響の発生要因①

【仕入値引ドル建債権の為替変動による影響】

- 当社が仕入先に対して保有する『仕入値引ドル建債権』が、為替レートの変動により評価額が増減することで、業績に大きな影響を与える
- 仕入値引ドル建債権について：
  - 量産案件によっては、通常価格よりも低い価格での販売を要請されることがある
  - その場合、仕入先との間で仕入価格の低減交渉を行う
  - その実現方法は、「仕入値自体の低減」と「仕入値引債権の付与による低減」



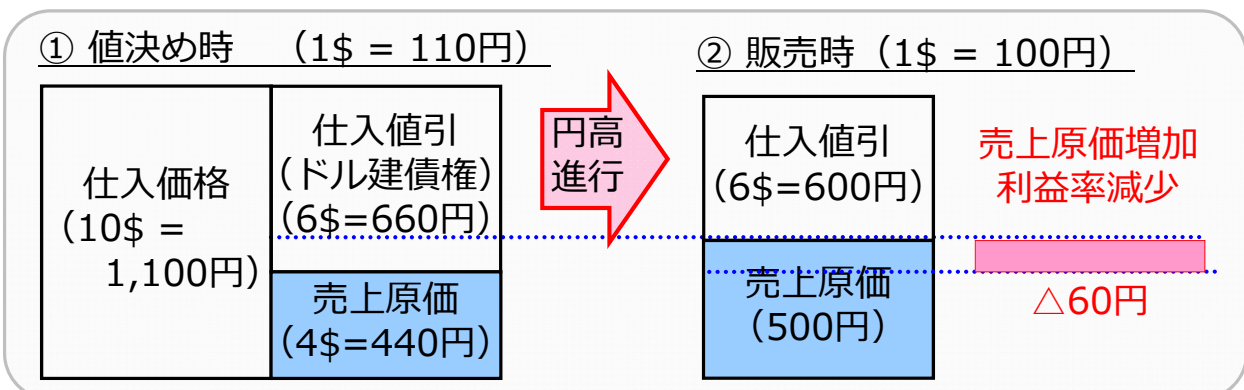
39

© 2018 PALTEK Corporation. All rights reserved.

## 急速な円高進行による仕入値引債権の評価額減少

- 仕入値引債権の評価額の増減は、値決め時と販売時の為替レートの差により生じる
- そのため、急速に円高が進行すると、為替レートの差が大きくなるため、仕入値引債権の評価額が大幅に減少
- これにより、売上原価が増加し、売上総利益が減少

例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化



40

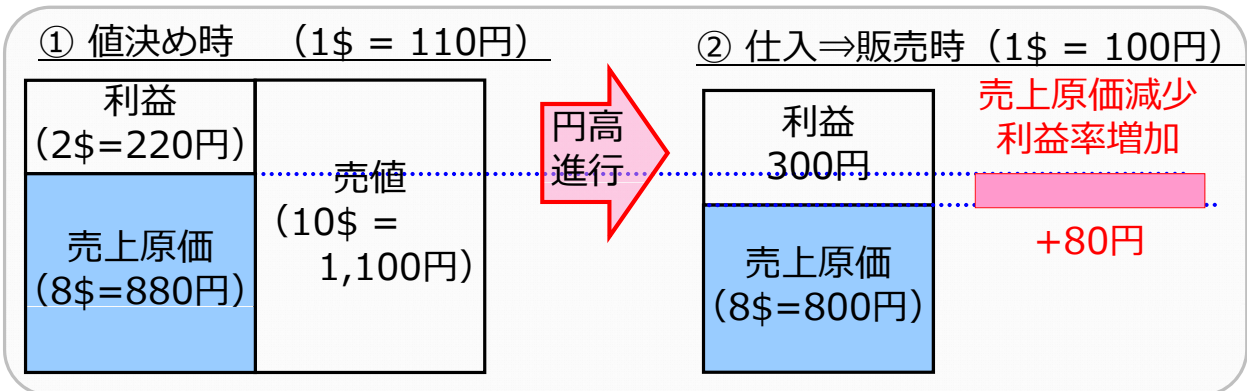
© 2018 PALTEK Corporation. All rights reserved.

## 為替変動による影響の発生要因②

【調達在庫の為替変動による影響】

- 海外から仕入れたドル建の製品において、為替レートが円高に進行することにより、売上原価が減少し、売上総利益は増加

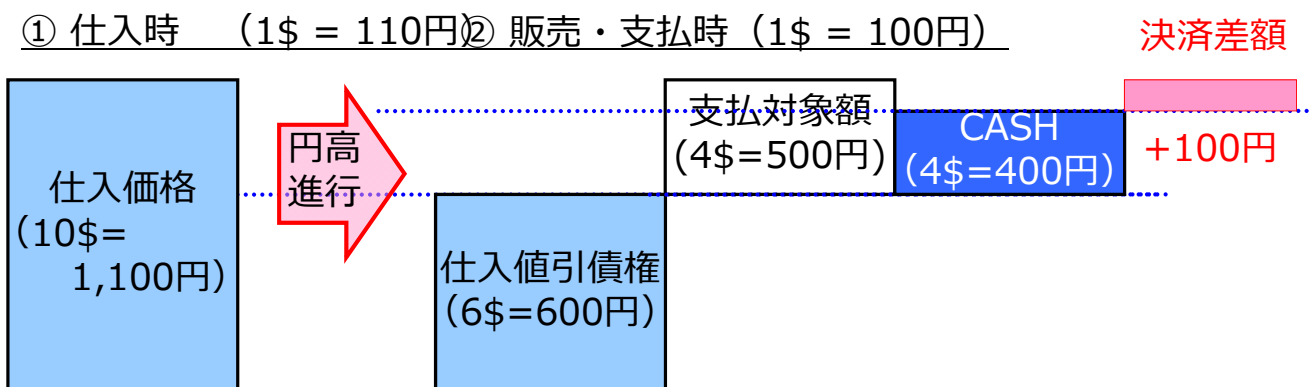
例：仕入れ価格10ドルの製品を販売する際の売上原価の変化



## 為替変動による影響の発生要因③

【決済時のドル調達レート変動による影響】

- 支払を行う際に円高に進行していた場合、ドルを調達する金額が少なくなるため、決済差額が生まれ、為替差益を計上することとなる
- 一方、円安に進行した場合は、為替差損を計上することとなる



## 為替変動による影響の発生要因④

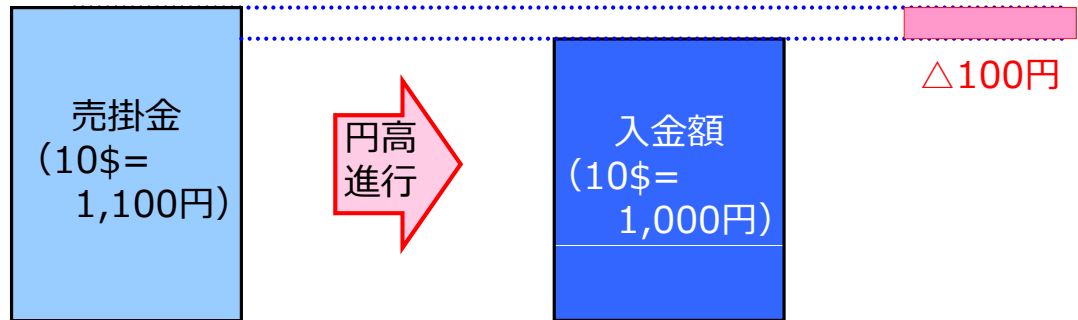
【ドル建売掛金入金時のレート変動による影響】

- ドル建売掛金の入金がある場合には、円高に進行するとマイナス、円安に進行するとプラスの影響が発生する（営業外の為替差損益）
- 当社はこのリスクを限定的にするために、為替予約を行っている

① 販売時 (1\$ = 110円)

② 入金時 (1\$ = 100円)

決済差額



## 為替変動の影響額 (2018年第1四半期)

### ■ 売上総利益への影響額

- 年初における評価レートから円高に進行したことにより、為替変動の影響額はマイナス方向に

(単位：百万円)	17Q1	17Q2	17Q3	17Q4	18Q1
為替レートの変動 (円)	117→(110)→111	111→(108-114)→112	112→(114-107)→112	112→(114-110)→112	113→106
為替変動の影響 (売上総利益)	102	-52	-83	56	-148
仕入値引債権の評価額変動の影響	128	-156	-62	109	-338
調達在庫の為替レート変動の影響	-26	104	-21	-53	189

### ■ 営業外損益への影響額 (期末評価替の影響は含まず)

- 買掛金支払時のレート変動の影響は、為替レートが円高に進行したことによりプラス方向に (売上総利益への影響と、おおよそ相殺関係となる)

(単位：百万円)	17Q1	17Q2	17Q3	17Q4	18Q1
買掛金支払時のレート変動の影響 (営業外)	36	46	54	-24	88

- 売掛金受取時のレート変動の影響額は為替予約実施のため変動影響が縮小

(単位：百万円)	17Q1	17Q2	17Q3	17Q4	18Q1
売掛金受取時のレート変動の影響 (営業外)	25	-29	-34	12	-74

(百万円)	2017年12月期 実績			2018年12月期 業績予想			通期増減	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	増減額	増減率
半導体	15,239	16,040	31,334	14,300	14,750	29,100	△2,234	△7.1%
FPGA	5,999	5,750	11,749	5,500	6,200	11,700	△49	△0.4%
特定用途IC	2,824	2,624	5,448	2,150	2,050	4,200	△1,248	△22.9%
汎用IC	1,630	1,797	3,428	1,750	1,850	3,600	171	5.0%
アナログ	1,618	1,580	3,199	1,100	850	1,950	△1,249	△39.0%
メモリ	3,221	4,287	7,508	3,850	3,800	7,650	141	1.9%
デザインサービス	719	810	1,530	850	950	1,800	269	17.6%
ソリューション	60	150	211	200	300	500	288	136.6%
売上高合計	16,074	17,001	33,075	15,400	16,000	31,400	△1,675	△5.1%
営業利益	533	504	1,037	260	300	560	△477	△46.0%

開示区分	内容説明
半導体事業	半導体及び関連製品の販売、技術支援
FPGA	ザイリンクス社のFPGAを中心とするソリューション
特定用途IC	特定用途に特化した半導体を中心とするソリューション (例：通信向け、インタフェース向け、携帯端末向け等)
汎用IC	NXPセミコンダクターズ社、マイクロチップテクノロジー社等の汎用ICを中心とするソリューション
アナログ	アナログ半導体を中心とするソリューション
メモリ	マイクロンテクノロジー社等のメモリを中心とするソリューション
デザインサービス事業	受託開発、ODM/EMS/OEM
ソリューション事業	最終製品レベルでのソリューション提案を実施 自社製品（ハードウェア、ソフトウェア、システム）の 開発・販売



以下の担当までお問い合わせ下さい。

### 株式会社PALTEK

柴崎 由記（総務グループ IR担当）

〒222-0033

横浜市港北区新横浜2-3-12 新横浜スクエアビル

TEL : 045-477-2072

FAX : 045-477-2012

E-mail : [ir@paltek.co.jp](mailto:ir@paltek.co.jp)